

海のシルクロードの東の到達地長崎と鄭成功一族について

齊藤孝治

日本広しといえども長崎ほど中国や中国文化があふれ、根付いている町は他に類を見ません。

「海のシルクロードの東の到達地長崎と鄭成功一族について」は、そうした長崎と中国との強い繋がりを書いたものです。

たとえば食文化一つにしても中国の高僧、隠元によってもたらされた精進料理の普茶料理は有名ですが、美味で知られる茂木ビワも中国がルーツと分かればびっくりします。

町に出ると唐寺と呼ばれる中国寺が多いほか、江戸時代、渡来した中国人が利用した唐人屋敷も今なお大切に保存されています。

風習の面では旧正月に欠かせない龍（じゃ）踊りや航海安全の女神、媽祖を祀る媽祖行列、お盆の日、故人の霊を祀るため模型の中国船を流す彩舟流しは年中行事になっている程です。

人物の点では、多くの中国人が長崎と縁を持ちましたが、その中で日中混血児の鄭成功はとくに光彩を放つ一人です。

昨今、長崎では、鄭成功や彼の祖父、母、弟の新資料が見つかり、再検証の動きも出てきています。

同文は、2015年9月20日、中国福建省の石獅市で開催された国際シンポジウムで発表したものです。